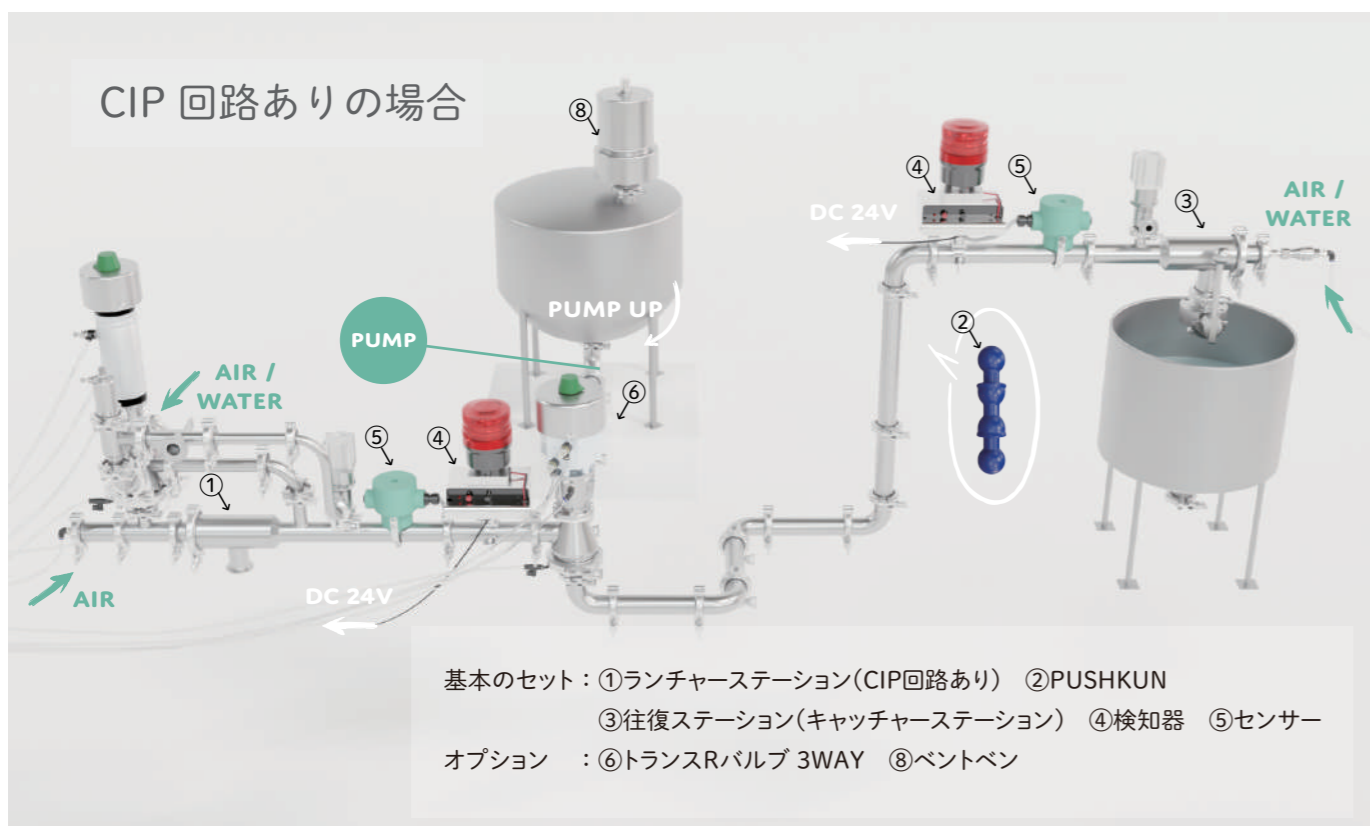
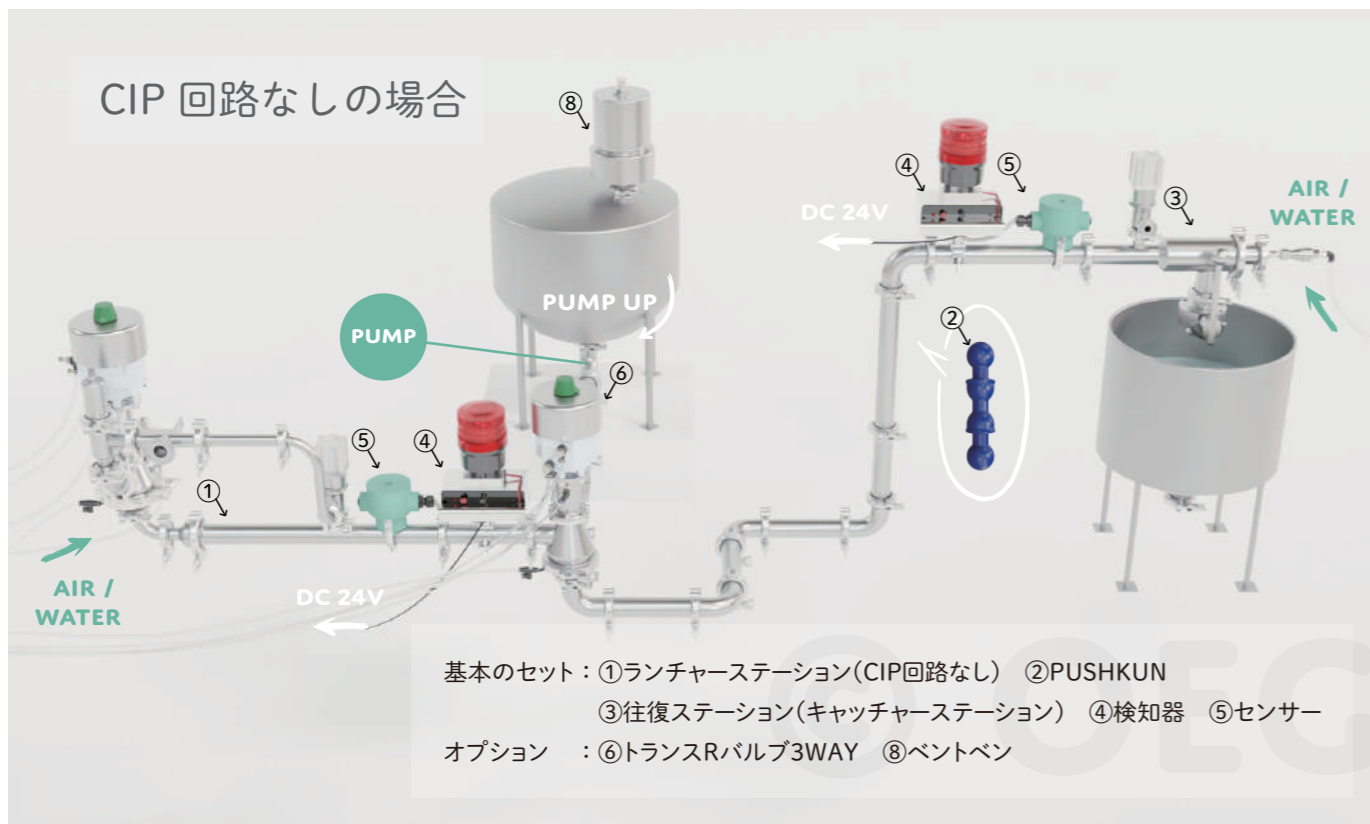


往復タイプ

往復タイプは、2.5S サイズ以上の長距離ラインや高所架設ライン、また原料移送頻度の多いラインに有効です。
本タイプでは、毎回 PUSHKUN をスタート管に装填したり、キャッチャー管から取り出す必要がありません。

ご参考見取り図



往復タイプについて

ランチャー
ステーション

【往路】送出

【復路】返送

キャッチャー
ステーション

ランチャーステーションは送り出し、キャッチャーステーションは受け止めを行う装置です。
PUSHKUN はキャッチャー到達後、ランチャーへ返送されるため、
両ステーションは「往復ステーション」とも呼ばれます。

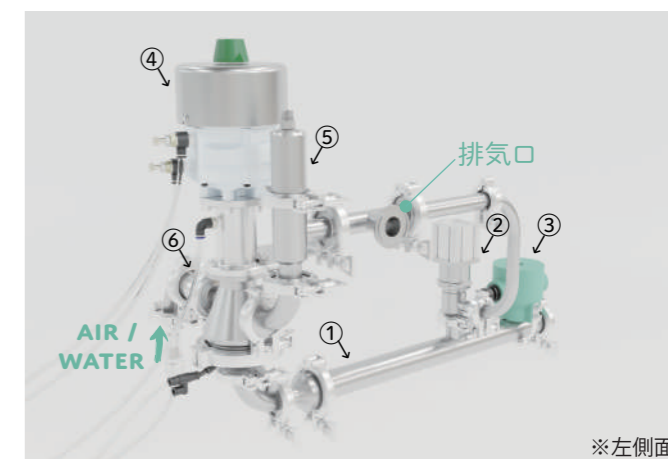
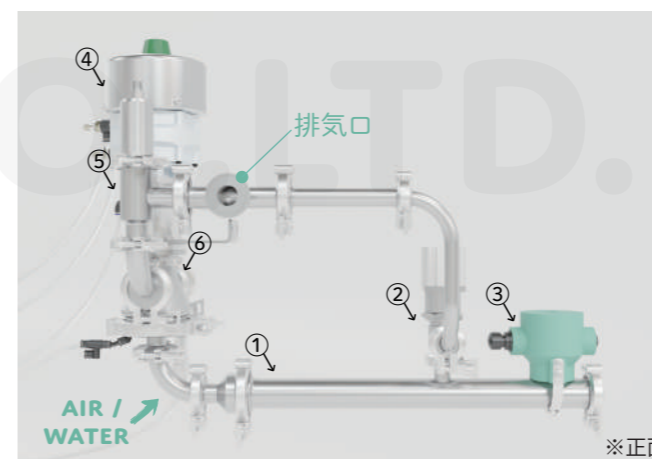
【ランチャーステーション (3種類)】

- ・基本仕様 (基本のランチャーステーション)
基本のランチャーステーションで環境を構成される場合は、
往復ステーション + 背圧調整バルブをご使用ください。
- ・CIP 回路なし
- ・CIP 回路あり

【キャッチャーステーション (1種類)】

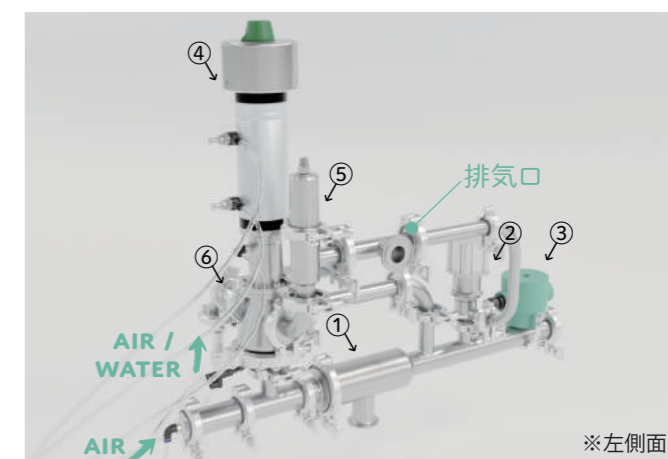
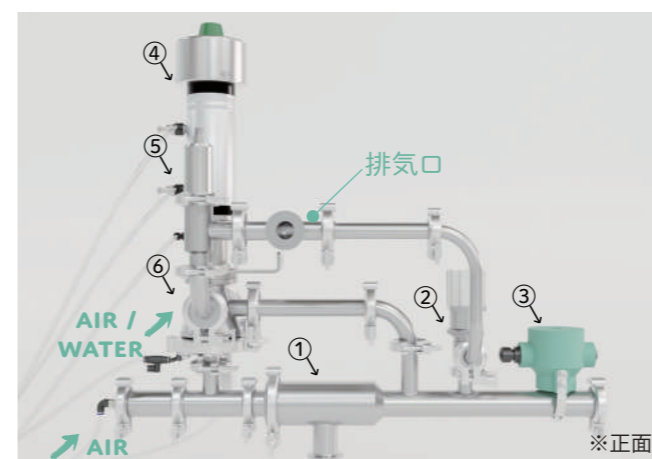
- ・基本仕様 (基本のキャッチャーステーション)
ランチャーステーションは排気弁が標準装備に対して、
キャッチャーステーションはオプション対応です。

ランチャーステーション CIP 回路なし



①ランチャーステーション(CIP回路なし) ②排気弁 ③センサー ④トランスRバルブ3WAY ⑤背圧調整バルブ ⑥原料逆止弁

ランチャーステーション CIP 回路あり



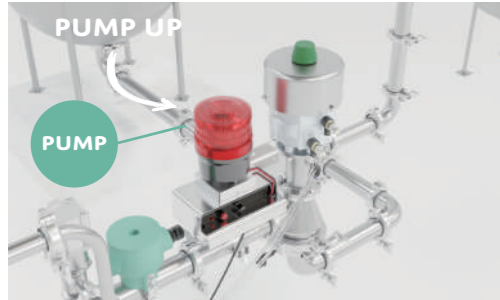
①ランチャーステーション(CIP回路あり) ②排気弁 ③センサー ④トランスRバルブ4WAY※ ⑤背圧調整バルブ ⑥原料逆止弁
※アクチュエーター生産終了に伴い、トランスRバルブ(オート)4・5WAYは在庫限りとなります。ハンドタイプは引き続き製作可能です。

往復タイプ 運用手順

STEP1

原材料の送液

タンクから生産ラインへ、バルブ方向を確認して原料を配管内にポンプで送り出します。



STEP2

バルブ方向の切り替え

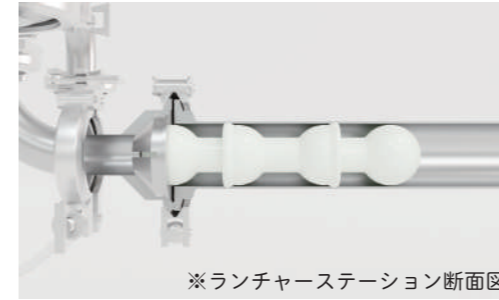
ポンプを止めて、ランチャーステーションが生産ラインに繋がるようにバルブの方向を切替えます。



STEP3

ランチャーの準備

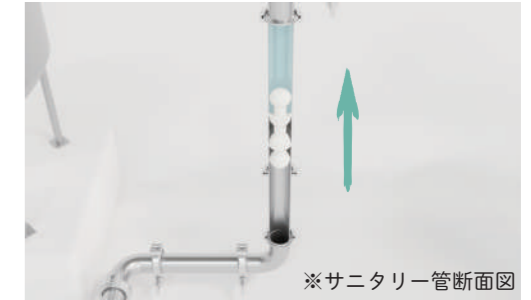
PUSHKUN がランチャーステーション内にあり、メートルック・排気弁が閉まっていれば準備完了です。



STEP4

PUSHKUN を送り返す

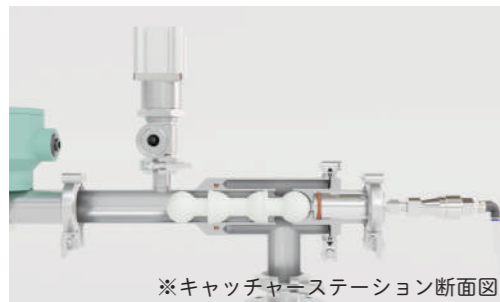
エアカプラーからランチャーステーションにエア圧を送り、PUSHKUN を配管内に進ませます。※1



STEP5

キャッチャーで受け止める

PUSHKUN がキャッチャーステーションのバスケットに到着し、原料の回収が完了します。※2



STEP6

エア抜き

エアの送り出しを止めて、往復ステーションの排気弁を開放し配管内に残っているエアを排出します。



STEP7

バルブ方向の切り替え

PUSHKUN がキャッチャーからランチャーへ戻る際の衝撃抑制のために、バルブを背圧調整バルブ側へ切り替えます。



STEP8

キャッチャーの準備

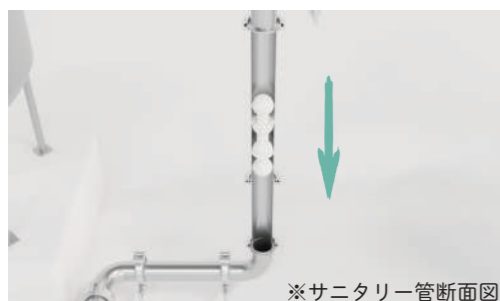
配管内のエア圧が残っていない状態で、キャッチャーステーションのエアカプラーからエア圧を送り PUSHKUN を送り返します。※3



STEP9

PUSHKUN を送り返す

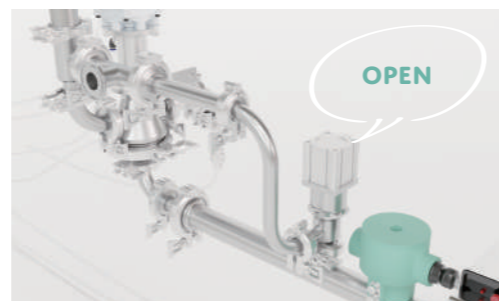
エア圧に押され、PUSHKUN はランチャーステーションに戻ります。※4



STEP10

エア抜き

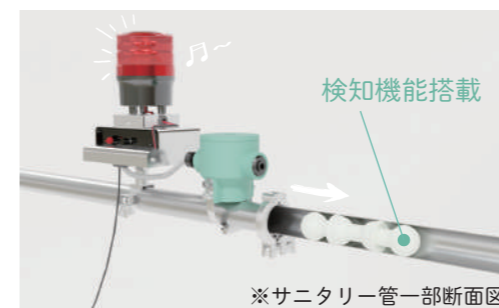
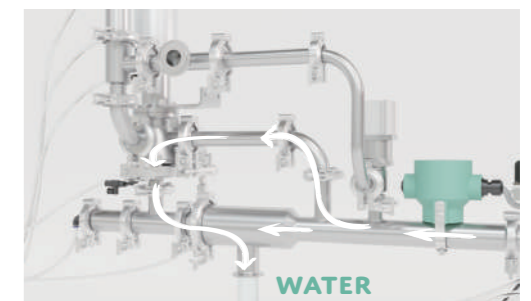
PUSHKUN がランチャーステーション内に到着後、排気バルブで配管内の残圧を排出します。



CIP 回路ありでは

CIP 洗浄

CIP 洗浄を行う際は、配管内・往復ステーション・PUSHKUN の洗浄を同時に行います。



往復タイプ PUSHKUN (WHR 型) は、検知機能つきが標準仕様です。センサー・検知器により、任意位置で PUSHKUN の位置や通過を把握できます。